

問1 3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。（2024年 沖縄公立入試 類似）

1. 「魏志」倭人伝 2. 「漢書」地理志 3. 「後漢書」東夷伝 4. 「隋書」倭国伝

問2 朝鮮半島から稲作が伝わった弥生時代の生活様式について述べた文章のうち、収穫した稲の保管方法に関する説明として正しいものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 地面を掘り下げて床を作った竪穴住居の中に保管した。 2. 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。 3. 大きな石を組み合わせて作った石舞台古墳の中に保管した。 4. 獲った獲物を燻製にするために、洞窟の奥深くに納めた。

問3 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため 2. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため 3. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため 4. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため

問4 弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。（2019年 徳島公立入試 類似）

1. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた 2. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた 3. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた 4. 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた

問5 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 石包丁 2. 石鏃 3. 打製石斧 4. 石匙

問6 弥生時代の遺跡の復元資料において、茅（かや）などの植物で葺かれた屋根が地面に接するほど低く設置され、地面を掘り下げて基礎としている住居が見られます。この住居と、同じ時代に稲などを保管するために作られた「高床倉庫」の構造上の最大の違いは何ですか。（2018年 奈良公立入試 類似）

1. 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている 2. 住居は瓦で屋根を葺いているが、倉庫は茅や草を用いて屋根を葺いている 3. 住居は木材を一切使わずに石だけで作られているが、倉庫は木材を中心に作られている 4. 住居は円形のものしかないが、倉庫はすべて三角形の形をしている

問7 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山公立入試 類似）

1. 高床倉庫 2. 竪穴住居 3. 環濠集落 4. 前方後円墳

問8 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された 2. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した 3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった 4. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった

問9 弥生時代の社会における銅鐸の特徴や役割について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2023年 三重公立入試 類似）

1. 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった 2. 鉄器よりも硬度が高いという性質を活かし、木を伐採するための工具として普及した 3. 大陸との交易を円滑に進めるために、重さに応じた価値を持つ貨幣として使われた 4. 各個人の家の中に置かれ、日常的に家族の健康を祈るための仏具として使われた

答え合わせ・解説

問1	答え 1 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問2	答え 2 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。	稲作が普及すると、収穫した食料を長期保存する必要が生じました。地面から床を高く浮かせることで通気性を良くし、湿気による腐敗を防ぐとともに、ネズミなどの小動物の侵入を防ぐ「ねずみ返し」などの工夫がなされました。
問3	答え 1 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稲耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問4	答え 1 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問5	答え 1 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問6	答え 1 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている	たて穴住居は地面を掘り下げて床を作ることで住空間を確保していましたが、収穫した稲を保管する高床倉庫は、湿気やネズミなどの害を防ぐために床を地面から高く離れた構造をとっていました。同じ集落内であっても、目的によって構造が明確に使分けられていたことがわかります。
問7	答え 1 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問8	答え 1 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問9	答え 1 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった	青銅器は、鉄器に比べると柔らかいという性質があるため、実用的な工具や武器よりも、権威を示す宝物や祭りの道具として発展しました。銅鐸は時代が下るにつれて、音を鳴らすためのものから「見るためのもの」へと大型化し、表面には狩猟や農耕の様子など、当時の社会を映し出す絵画的な装飾が見られるようになります。